体験から学ぶ　阪神・淡路大震災の体験から

首都直下地震が起きたら、どのような状況になるのでしょうか。平成7年の阪神・淡路大震災の体験の中から、都市直下地震がどのような状況だったのか、そしてどのように備えればよいのかを知ることができます。

「阪神・淡路大震災記念　人と防災未来センター」の語り部として活動されている秦詩子さんに研修会でお話いただいた内容から、一部をお伝えします。

阪神・淡路大震災が起きたのは、朝5時46分。神戸市東灘区のマンションで被災したその時のことを、秦さんは「地震だとはわからなかった」と語ります。

「飛行機が落ちたのかと思った人もいた。それまで、関西で大地震が起こるとは全く考えたことがなく、防災について何も準備していなかった。家の中は家具が倒れ、引き出しが飛び、ミキサーにかかったような状況だった。たった15秒程度の大きな揺れで、一瞬にして家具が飛ぶ。そういう怖さがあることを知った。倒れてきた和装ダンスの開いた扉の隙間に入った形で、たまたま助かった。

明かりが全くなく真っ暗な時間が過ぎ、薄明るくなって息子が手元に投げてくれた靴を履き、ガラスが飛び散っている家の中を歩いた。歪んで開かない玄関の戸に隙間を作って、やっと家の外に出た。

マンションは１階がつぶれ傾いて住める状況にはなく、近くの小学校は教室も廊下も運動場も人で一杯。マンションの人たちで声を掛け合い、なんとか自宅に戻って米と調味料などを持ってきたので、キャンプの知識を活かして近くの公園でおむすびを作っていたら、ずらっと人々の列ができていた。車の中で１週間過ごしていたが、その公園に材料や鍋を持ち寄り、炊き出しを始めた。避難所に指定してもらったので、物資もボランティアさんも来てくれた。その公園での避難生活は4か月間に及んだ。水は3か月、ガスは2か月、電気は１週間くらいで復旧したが、同じ神戸でも復旧までの期間はいろいろだった。何よりも困ったのはトイレ。ボランティアの学生さんたちが、仮設トイレの整備や掃除などをしてくれて、本当に助かった。

自分にできることは自分でやらなければと思い、体を動かしていた。何回かくじけそうになったが、近所の人や友達に、その度に助けられた。自分たちが生きていくためには、自分たちが動くしかない、ということを、子供たちに伝えたいと思う。」

震災後8年目から語り部のボランティアを始めた秦さんは、御自身の体験を伝えていくことで何か役に立つことがあれば、という思いで講演活動をされています。

体験から学ぶ　防災体験学習施設

人と防災未来センター

そなエリア

秦さんが語り部として活動されている「阪神・淡路大震災記念　人と防災未来センター」は、兵庫県神戸市中央区に位置し、阪神・淡路大震災の経験と教訓を展示するとともに、防災研究や災害対策専門職員の養成など、多くの機能を持つ施設です。

http://www.dri.ne.jp/index.html

東京都には、東京消防庁の防災体験施設として、3つの防災館（池袋、本所、立川）があり、小学生から大人まで、様々な体験を通して防災について学ぶことができます。

東京消防庁　http://www.tfd.metro.tokyo.jp/index.html

有明にある「そなエリア東京（東京臨海広域防災公園　防災体験学習施設）」は、１階に再現された被災市街を歩きながら、ゲーム機に示される防災クイズに挑戦する体験施設があります。2階には映像ホールなどの学習施設があり、毎月、防災セミナーや親子で参加できるイベントを開催しています。

http://www.ktr.mlit.go.jp/showa/tokyorinkai/index.htm

■ BumBワークショップ・イベント
「私が世界を変えられるかどうか決める日」　聞く、話す、繋がる

社会の活性化のために活動している若者たちのトークイベント。「私たちには何ができるか！」をテーマにワールドカフェのスタイルで、会場全体のディスカッション。

日　時：8月19日(日)10:30〜17:00
会　場：BumB東京スポーツ文化館
対象者：社会の中で「なんとかしたい大切なこと」がある人、関心のある方どなたでも。定員60名
参加費：無料
申込み：8月10日締切、電話、ハガキ、Email、またはFAXで。

■申込み・問合せ先
BumB東京スポーツ文化館
〒136-0081　東京都江東区夢の島2-1-3
電話：03-3521-7323　FAX：03-3521-3506
Email：tsubota@xecta.co.jp